

	シミュレーションNo.5-1 (用途別料金体系)	シミュレーションNo.5-2' (口径別料金体系)																													
料金体系そのもの特性	<p>用途別料金体系</p> <p>① 公衆衛生の向上のため、生活水の使用促進を目的に多くの事業者で採用された体系。生活水(家事用)に対しては低廉な料金を設定する一方、負担能力が高い特定の用途(業務用)に対して高い料金を設定するもの。</p> <p>② 日本水道協会の料金算定要領では漸進的に解消することとしている。</p> <p>③ 全国的に減少傾向。昭和40年当時は全国で約99%の事業者が採用。平成25年度で33.7%まで減少</p>	<p>口径別料金体系</p> <p>① 給水管や水道メーターの口径により料金を付加するため、負担の公平性、料金体系が明確なのが特徴。口径の大きなメーターをつけている利用者は一度に多くの水を使うことができることから、口径が大きいほど水道施設の費用を多く負担すべきであると考え、一般的に基本料金を高く設定している。</p> <p>② 日本水道協会の料金算定要領の原則体系。</p> <p>③ 全国的に増加傾向。平成25年度で、全国で55.3%の事業者が採用。(県内では横須賀市、座間市が採用)</p>																													
シミュレーション結果の特徴	<p>① 基本料金での回収率は、26.8%となり、理想的な固定費回収率である37.9%に近づいた。</p> <p>② 家事用の対業務用比率を1.70とし、業務用料金の負担の不公平を改善したが、未だ業務用の負担は大きい。</p> <p>③ 超過料金の改定差額を、15円から水量が多くなるに従って逡減したため、公平性と逡増性の緩和を確保した。(逡増度指数:2.94)</p> <p>④ 大口利用者の水需要を促すような体系とした。</p>	<p>① 基本料金での回収率は、27.6%となり、理想的な固定費回収率である37.9%に、No.5-1よりさらに近づいた。</p> <p>② 口径別料金体系を採用したことで、家事用、業務用という区分がなくなり、家事用に偏っていた業務用料金の負担の不公平を解消した。</p> <p>③ 超過料金の改定差額を、15円から水量が多くなるに従って逡減したため、公平性と逡増性の緩和を確保した。(逡増度指数:2.88)</p> <p>④ 大口利用者の水需要を促すような体系とした。特に501m³以上の従量単価の増額は無しとし、使用控えを抑える体系とした。</p>																													
良い点(メリット)	<p>① 現行の料金体系と同じ用途別であることにより、利用者への周知・理解は早いと考えられる。</p> <p>② 個別での料金激変は特に発生しない。</p>	<p>① 使用している口径によって、各使用者の料金体系が決定するため、非常に公平で、主観的判断(家事用なのか業務用なのか)が入る余地がない。</p> <p>② 口径によって適切な基本料金が設定されるため、経済の原理原則(設置費用が高く維持費が高いものは高い料金となる)に従った料金収入を得られる。</p> <div style="text-align: center;"> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">口径</th> <th rowspan="2">主な用途</th> <th colspan="2">給水施設の準備・維持費用</th> </tr> <tr> <th>接続メーターや周辺管の費用</th> <th>給水施設の準備・維持費用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13mm</td> <td rowspan="3">家庭・小規模店</td> <td rowspan="3">安い</td> <td rowspan="3">安い</td> </tr> <tr> <td>20mm</td> </tr> <tr> <td>25mm</td> </tr> <tr> <td>40mm</td> <td rowspan="6">集合住宅 公共施設 商業施設 工場等</td> <td rowspan="6">高い</td> <td rowspan="6">高い</td> </tr> <tr> <td>50mm</td> </tr> <tr> <td>75mm</td> </tr> <tr> <td>100mm</td> </tr> <tr> <td>150mm</td> </tr> <tr> <td>200mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>→</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">基本料金</th> </tr> <tr> <th>現行</th> <th>改定後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>同額</td> <td>安い</td> </tr> <tr> <td>650円</td> <td>高い</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>③ 大口口径にもかかわらず、使用水量が少ない場合、基本料金が増大することになるが、その結果、水量に見合った適切な口径への変更を促すことができる。それにより、交換費用の減少等に繋がる。</p>	口径	主な用途	給水施設の準備・維持費用		接続メーターや周辺管の費用	給水施設の準備・維持費用	13mm	家庭・小規模店	安い	安い	20mm	25mm	40mm	集合住宅 公共施設 商業施設 工場等	高い	高い	50mm	75mm	100mm	150mm	200mm	基本料金		現行	改定後	同額	安い	650円	高い
口径	主な用途	給水施設の準備・維持費用																													
		接続メーターや周辺管の費用	給水施設の準備・維持費用																												
13mm	家庭・小規模店	安い	安い																												
20mm																															
25mm																															
40mm	集合住宅 公共施設 商業施設 工場等	高い	高い																												
50mm																															
75mm																															
100mm																															
150mm																															
200mm																															
基本料金																															
現行	改定後																														
同額	安い																														
650円	高い																														
(デメリット)	<p>① 個人商店で経営状況が不明な場合等に、本来は業務用の用途であるにもかかわらず家事用の用途での使用実態(またはその逆)が発生し、公平な料金負担とならない場合がある。</p>	<p>① 現状の用途別と異なる料金体系となるため、利用者への周知・理解に時間がかかるおそれがある。</p> <p>② ごく一部の、大口口径にもかかわらず、低水量の利用者について、基本料金の増大により、高い改定率となる場合がある。(上記③の促しにつながる)</p>																													